

※情報解禁は2024年1月4日(木)午前0時
(2024年1月3日(水)24時以降)にお願いいたします。

『田舎暮らしの本』が発表！

2024年版 第12回「住みたい田舎ベストランキング」 人口別8グループ^① & 世代別4部門^②を発表 (村/町/市) (総合/若者世代・単身者/子育て世代/シニア世代)

■ 岐阜県恵那市が初の1位 & 3つの部門で1位を獲得！

※人口3万人以上5万人未満の市

■ 愛媛県今治市が2年連続全部門1位を獲得！

※人口10万人以上20万人未満の市

■ 大分県豊後高田市は4年連続全部門1位を獲得 & 12年連続ベスト3入り！

※人口3万人未満の市

全国587自治体の
アンケートを元に集計！

ファッション雑誌販売部数トップシェア(※)の株式会社宝島社(本社:東京都千代田区)が発行する月刊誌『田舎暮らしの本』は、2024年1月4日(木)発売の2月号で、「2024年版 第12回 住みたい田舎ベストランキング」を発表します。

「住みたい田舎ベストランキング」は、“日本で唯一”の田舎暮らしを紹介する月刊誌『田舎暮らしの本』が2013年2月号より毎年実施しているランキングで、今回で12回目を迎えました。移住定住の促進に積極的な市町村を対象に、移住支援策、医療、子育て、自然環境、就労支援、移住者数などを含む278項目のアンケートを実施。587の自治体からいただいた回答をもとに、田舎暮らしの魅力を数値化し、ランキング形式で紹介しています。今年は、人口区分を「村」「町」「市」に分類。過去最多となる8グループ(村/1万人未満の町/1万人以上の町/3万人未満の市/3万人以上5万人未満の市/5万人以上10万人未満の市/10万人以上20万人未満の市/20万人以上の市)に分けてランキング。世代によって移住者のニーズや施策が多岐にわたるため、昨年に引き続き、全世代対象の【総合部門】のほか、【若者世代・単身者部門】【子育て世代部門】【シニア世代部門】の全4部門でランキングを発表しています。

「人口10万人以上20万人未満の市」では愛媛県今治市が昨年に続き、4部門すべてで1位を獲得。「人口3万人未満の市」では、大分県豊後高田市が全部門で1位を獲得し、12年連続ベスト3入りを達成しました。また、「人口3万人以上5万人未満の市」では、岐阜県恵那市が3部門で初の1位を獲得しました。全国を12に分けたエリア別ランキングでも【総合部門】【若者世代・単身者部門】【子育て世代部門】【シニア世代部門】の4部門を発表しています。

さらに、第18回「移住したい都道府県ランキング」も発表。読者アンケート(はがき、ネット回答)による1年間の集計結果を掲載しています。1位は18回連続で長野県が獲得。鹿児島県が7位と初めてトップ10にランクインしました。ランキング情報の提供や編集長の取材も可能ですので、ぜひお問い合わせいただければ幸いです。

※日本ABC協会 雑誌発行人レポート 2023年上半期(1~6月)より

※本ランキング情報掲載時は、

宝島社『田舎暮らしの本』2月号「2024年版 第12回 住みたい田舎ベストランキング」と必ずご明記ください。



◆『田舎暮らしの本』

1987年に創刊した“日本で唯一”の田舎暮らしを紹介する月刊誌です。全国各地の物件情報や、田舎暮らしに必要なハウツーを紹介。お仕事情報など、実際の移住者レポートを交え、田舎暮らしに役立つ具体的な情報を発信しています。2013年2月号から「住みたい田舎ベストランキング」を発表。

『田舎暮らしの本』2024年2月号

2024年1月4日(木) 発売/特別定価: 890円(税込)



『田舎暮らしの本』編集長
柳 順一 (やなぎ・じゅんいち)

前回は、市町村の区別をせずに人口別にグループ分けしました。今回は、まず村、町、市で分けました。村グループの上位は、いずれも風土豊かで魅力的な移住候補地です。また「2023年度の社会増減の推移」を尋ねる質問では「社会増減プラス」と回答しました。移住者受け入れにしっかり取り組んでいる自治体に人が集まっているといえそうです。本誌は引き続き「魅力的な移住候補地」をご紹介します。



2月号では、
読者アンケートによる
第18回「移住したい
都道府県ランキング」
も発表！

移住・趣味・物件・・・
田舎暮らしのお役立ち情報を発信

「田舎暮らしの本Web」もチェック！
<https://inakagurashiweb.com>



★村

総合部門

- 第1位 **山梨県丹波山村**
- 第2位 長野県宮田村
- 第3位 群馬県嬭恋村

若者世代・単身者部門

- 第1位 **群馬県嬭恋村**
- 第2位 長野県宮田村
- 第3位 長野県木島平村

子育て世代部門

- 第1位 **長野県宮田村**
- 第2位 山梨県丹波山村
- 第3位 長野県青木村

シニア世代部門

- 第1位 **群馬県嬭恋村**
- 第2位 長野県木島平村
- 第3位 長野県宮田村

山梨県丹波山村の魅力

- 30年以上にわたり「親子山村留学」が続いてきた。現在も多くの子どもたちが、大自然のなか、少人数制のクラスでのびのびと学んでいる
- 地域コーディネーターをはじめ、さまざまな人たちが子どもたちの成長を見守っている
- 丹波山村移住定住促進協議会が移住をサポート

群馬県嬭恋村の魅力

- 高原野菜の有数の産地で、シニアの活躍の場が多い
- 涼しい気候で、夏は過ごしやすいため、自然の涼しさのなかでテレワークができる。東京との行き来もしやすい
- 移住コーディネーターが移住前も移住後も親切に対応

長野県宮田村の魅力

- 全国でも珍しい0歳児からの未満児専用保育園がある
- 妊娠中や産後間もないお母さんがヘルパーを利用する際、費用の一部を補助
- 冬季の寒さは厳しいが、降雪は少なく晴天率が高い。夏は湿度が低く暮らしやすい

地域の財産「人」が輝ける村づくりを推進

コロナ禍を経て、移住のお問い合わせを多数いただいています。その多くが30代、40代の子育て中の若い世代の方からです。2022年度からはコミュニティ・スクールの活動も始まり、自然体験、伝統文化継承、地場産業・特産品の三本柱で、体験学習に力を入れています。今後も、丹波山村の最大の財産である「人」が輝ける村づくりを推進していきます。

たばやまそんちよう
丹波山村長
きのした よしひと
木下 喜人氏
コメント

つまごいそんちよう
嬭恋村長
くまかわ さかえ
熊川 栄氏
コメント

移住コーディネーターがいないにサポート

嬭恋村は、夏秋キャベツの産地として有名で、その生産量は日本一です。移住施策に力を入れ、移住コーディネーターが移住前の相談だけでなく、移住後も要望に応じて訪問し行政情報のお届けや困りごとの相談ができるよう暮らしをサポートする体制を整えています。自然豊かで安心感のある田舎暮らしを実現したい方は、ぜひ一度、嬭恋村にお越しください。

生活圏が半径2.5kmの快適便利、コンパクトな村

「子育て支援日本一」を掲げた10年を超える取り組みにより、妊娠・出産から高校・大学まで、各ステージごとに村独自の子育て支援を行ってきました。2つのアルプ스에 囲まれた田園風景で育つお米や野菜をふんだんに使った学校給食も好評です。若者からお年寄りまで、「住みたい、住んでよかった、住み続けたい」と思っていただけの宮田村に、ぜひ一度お越しください！

みやだそんちよう
宮田村長
おだざり やすひこ
小田切 康彦氏
コメント

★人口1万人未満の町

総合部門

- 第1位 **福島県浪江町**
- 第2位 山口県阿武町
- 第3位 島根県飯南町

若者世代・単身者部門

- 第1位 **福島県浪江町**
- 第2位 島根県飯南町
- 第3位 北海道下川町

子育て世代部門

- 第1位 **島根県飯南町**
- 第2位 北海道沼田町
- 第3位 福島県浪江町

シニア世代部門

- 第1位 **北海道沼田町**
- 第2位 島根県飯南町
- 第3位 福島県浪江町

福島県浪江町の魅力

- 太平洋岸の請戸漁港が福島県最東端に位置し、温暖な気候で暮らしやすい。水揚げされるヒラメ、カレイ、シラスなど海の幸も豊富
- 2023年度は10月末時点で92人と移住者が多く、移住者同士の交流も盛んだ。飲食関連の起業や新規就農などスタートアップの環境も整っている
- 水素の地産地消を実現する最先端のテクノロジー、福島国際研究教育機構（F-REI）の立地など、新しい技術にも挑戦している

島根県飯南町の魅力

- 昨年度からスタートした住宅支援事業では、町産材の利用や下水道接続などの項目を組み合わせると、最大410万円の補助金となる
- トマトやパプリカの生産を中心とした施設野菜での自営就農を目指す人を対象に、農林業定住研修制度がある
- 島根県有数のブナの森が広がる「飯南町ふるさと森」や県下最大のハンノキ林がある「赤名湿地性植物群落」など自然スポットが多い

北海道沼田町の魅力

- 「沼田町暮らしの安心センター」には、クリニックやデイサービスセンターなどがあるほか、町民は本格的なマシントレーニングが無料でできる
- 生涯活躍のまちを掲げ、例えば地域食堂での調理のボランティアなど、シニアができることを活かし、交流を広げられる場が設けられている
- 毎年8月に開かれる夜高（ようたか）あんどん祭りでは、あんどんづくりに町民のほとんどがかかわる。移住者は祭を通じて地域の輪に入れる

なみえちようちよう
浪江町長
よしだ えいこう
吉田 栄光氏
コメント

“わくわく”するような「挑戦」を生み出すまち

浪江町は「未来」に向けた発展的復興を目指しています。2020年3月にゼロカーボンシティを宣言し、「なみえ水素タウン構想」を発表しました。また、大堀相馬焼や相馬野馬追などの伝統文化が盛んなところ。挑戦者を快く受け入れるこのまちで、自分らしい生き方を始めてみませんか？

幅広い支援により毎年人口の1%が移住

本町では「子どもたちの声が聞こえるまちづくり」を目指し、子育てしやすい環境づくりと、まちぐるみでの教育推進に取り組んできました。出産祝い金をはじめ、保育料完全無償化、高校生までの医療費無料化や子育て世帯向け住宅の整備、ICT教育など幅広い支援により、毎年人口の1%、約40人の移住につながっています。これからもまちを挙げて子育てを応援していきます。

いいなちちようちよう
飯南町長
つかはら たかあき
塚原 隆昭氏
コメント

ぬまたちちようちよう
沼田町長
よこやま しげる
横山 茂氏
コメント

四季の自然と祭りの文化 もっと住みたくなる町へ

青い空と緑の大地にはトマトが育ち、輝く星空に負けないまぶくなるほどのホテルが飛び交う幻想的な町、そして夜空が真っ赤に染まる「夜高あんどん祭り」は北海道三大あんどん祭りの1つです。道内唯一の「けんかあんどん祭り」の地「北海道沼田町」には、全国から移住の相談が来ます。残念ながら総合1位は逃しましたが、より住みたくなるまちづくりに挑戦してまいります！

★人口1万人以上の町

総合部門

- 第1位 鳥取県琴浦町**
 第2位 高知県四万十町
 第3位 鹿児島県肝付町

若者世代・単身者部門

- 第1位 茨城県境町**
 第2位 鳥取県琴浦町
 第3位 鹿児島県肝付町

子育て世代部門

- 第1位 鳥取県琴浦町**
 第2位 茨城県境町
 第3位 長野県木曾町

シニア世代部門

- 第1位 鳥取県琴浦町**
 第2位 長野県木曾町
 第3位 茨城県境町

鳥取県琴浦町の魅力

- 住民主体の地域づくり活動が盛んで、イベントなども多く開催され、訪れる人を温かく迎えてくれる
- 若い人が楽しめる活動が多く、チャレンジしやすい環境がある。行政も地域の人にも応援してくれる
- 名峰・大山から日本海まで、雄大な自然が楽しめる。そんな自然を活かしたアウトドアスポットも

茨城県境町の魅力

- 先進英語教育が5歳から中学生まで無料で受けられる。小中学校にALTが複数常駐（1校当たり3.4人）し、休み時間や給食中も英会話を体感。英検の受験料が無料で、各学校で受験可能
- 住宅の新築・購入には住宅部分の固定資産税相当額を3年間交付、民間賃貸住宅には最大36万円の家賃補助など住居支援も充実
- 医療費は20歳の学生まで無料に。給食費は保育園も小中学生も無料、保育料は第2子以降無料
 ※小中学校給食費は23年度分
- 屋根付きの全天候型公園では、雨や日差しの強い日でも遊べる

海あり、山あり、何でもある小さな惑星へようこそ

名峰・大山の恵みを受けた地酒、魚介、乳製品、梨、牛肉などの特産品があり、多彩な魅力を有する町を1つの星になぞらえて「惑星コトウラ」として、ブランディングに取り組んでいます。本ランキングにおいて連続受賞となり、一同大変喜んでます。移住を希望される方がたの新たな冒険先として、たくさんの温かい住民が迎えてくれますので、ともに素晴らしい未来を築いていけることを楽しみにしています。

ことらちようちよう
琴浦町長
 ふくもと まり子氏
 コメント

さかいちようちよう
境町長
 はしもと まさひろ
橋本 正裕氏
 コメント

子育て支援日本一を目指す境町に“英語移住”しませんか

茨城県境町では、保育園・小中学校でALTと無料で英語が学べる先進英語教育をはじめ、20歳の学生まで医療費無料、保育料第2子以降無料、保育園・小中学校の給食費無料、移住定住の奨励金、25年住み続けたら土地と住宅が無償譲渡される戸建住宅など、町独自のサポートを充実させています。今後も子どもたちの未来のために最大限の投資をしております。

★人口3万人未満の市

総合部門

- 第1位 大分県豊後高田市**
 第2位 大分県国東市
 第3位 岐阜県飛騨市

若者世代・単身者部門

- 第1位 大分県豊後高田市**
 第2位 長野県飯山市
 第3位 兵庫県養父市

子育て世代部門

- 第1位 大分県豊後高田市**
 第2位 大分県国東市
 第3位 兵庫県養父市

シニア世代部門

- 第1位 大分県豊後高田市**
 第2位 兵庫県相生市
 第3位 大分県杵築市

大分県豊後高田市の魅力

- 全世代が恩恵を得られるようライフステージに応じた185項目の移住・定住支援を用意
- 子どもが生まれる前から高校を卒業するまで「8つの無料」制度を実施
- 「昭和の町」や日本の夕陽百選選定「真玉海岸」、花とアートの岬「長崎鼻」、6カ所の温泉など、住民も観光客も楽しめる地域資源が豊富

**185項目の支援を取り揃え
 4年連続で全部門トップ！
 12年連続ベスト3入り**

ぶんごたかだしちよう
豊後高田市長
 ささき としお
佐々木 敏夫氏
 コメント

あらゆる世代が住みやすい環境づくりに努めています

私どもが最重点課題に位置付けている2本柱が、人口増施策と、観光振興による交流人口拡大や地域活性化です。特に力を入れている子育て支援をはじめ、多岐にわたる移住・定住対策に全職員で取り組んでいます。安心して子どもを生き育てられる環境に恵まれ、働く場所もしっかりある豊後高田市へぜひお越しください。行政と地域住民が力を合わせてサポートいたします。



人口増を目指す移住先進地

12年連続でベスト3入り、4年連続で全部門1位の豊後高田市。充実し続ける定住支援策が圧巻です。新しいところでは、市外通園の保育料や幼稚園授業料を無料化、幼稚園で英語教育を採用、高校生への支援も強化するなど、子育て世代にうれしい支援策が目白押しです。

★人口3万人以上5万人未満の市

総合部門

- 第1位 岐阜県恵那市**
第2位 大分県臼杵市
第3位 島根県雲南市

若者世代・単身者部門

- 第1位 島根県雲南市**
第2位 富山県氷見市
第3位 熊本県菊池市

子育て世代部門

- 第1位 岐阜県恵那市**
第2位 長崎県五島市
第3位 島根県雲南市

シニア世代部門

- 第1位 岐阜県恵那市**
第2位 大分県臼杵市
第3位 鳥取県倉吉市

岐阜県恵那市の魅力

- 移住支援担当の人数が充実。先輩移住者である移住定住サポーターは、対面で移住希望者の相談にのってくれる
- 2022年、子育て支援を拡充。2023年には「恵那未来キャンパス」ICT教育らぼ」を新設し、教育支援も手厚い
- 歴史や食文化、自然など豊富な地域資源を生かした新たな取り組みで関係人口の拡大につなげている

島根県雲南市の魅力

- 市内中心部から出雲縁結び空港へ車で約20分。のどかな自然に包まれながら県都の松江市や出雲市も生活圏内
- 行政・企業・団体・個人が連携し、まちの未来を担う人材を育成。意欲とアイデアがあれば誰もが輝ける
- 絶えず新たなチャレンジや事業が生まれ、全世代が住みやすいまちづくりにつながっている

自然や歴史はもちろん交通面でも恵まれた環境です

3つの部門で1位の評価をいただき、感謝しております。昨年度から、高校生までの医療費無償化や第3子誕生の祝い金の支給、ICT教育の推進など子育て施策に力を入れています。移住施策でも、補助金の拡充や、移住者が起業相談などをしやすい体制をとっています。自然や歴史に恵まれた恵那市ですが、中央本線、将来のリニアの駅にも近いなど、交通面でも恵まれています。皆さんも恵那での暮らしを考えてみませんか。

えなしちょう
恵那市長

こさか たかね
小坂 喬峰氏
コメント

うんなんしちょう
雲南市長

いしとび あつし
石飛 厚志氏
コメント

おせっかいと優しさで暮らしを応援します！

移住前から移住後まで、きめ細かな専門スタッフのサポートがご好評をいただいています。移住した皆さんのご協力もいただき、人が人を呼ぶ「移住の連鎖」やつながりが生まれています。雲南市ならではのチャレンジを応援する環境も、地域・企業・団体・そのほか大勢の「おせっかい」が絶えません。子育てや若者の挑戦に優しい、ちょうどいい田舎の雲南市に来てみませんか。

★人口5万人以上10万人未満の市

総合部門

- 第1位 宮城県栗原市**
第2位 大分県宇佐市
第3位 福島県南相馬市

若者世代・単身者部門

- 第1位 長野県飯田市**
第2位 大分県宇佐市
第3位 岡山県津山市

子育て世代部門

- 第1位 長野県飯田市**
第2位 大分県宇佐市
第3位 長野県伊那市

シニア世代部門

- 第1位 大分県宇佐市**
第2位 宮城県栗原市
第3位 長野県佐久市

宮城県栗原市の魅力

- 新幹線を使えば約30分で仙台市へ通勤・通学が可能。東京駅へは約2時間とアクセス良好
- 和気あいあいとした交流会や移住相談会でまちの魅力を発信。開催回数は全国でも上位で内容も充実
- 「子育てに優しい街 栗原。(ピッキリはら！)」を掲げる通り、子育てにかかる費用の大半を支援

長野県飯田市の魅力

- 得意なことを仕事につなげたいと思っている女性向けに、セミナーや相談窓口を提供する「起業どうしようかなクラブ」を開催
- 空き家や竹林拡大などの地域課題解決に協力したい人を募集。若いリーダーも増えている
- 「結いターンシップ」と「ショート留学」の参加者に、宿泊費と交通費を一部補助

大分県宇佐市の魅力

- 潮干狩りが楽しめる遠浅の海、県内最大の穀倉地帯、マチュピチュに例えられる山岳風景など、変化に富んだ景観が広がる
- 新たに小・中学校の給食費完全無償化、男性の育児休業取得促進奨励金を実施
- 健康づくりや介護予防の教室を多彩に展開し、高齢者の見守り活動や移手段も確保

くりはらしちょう
栗原市長

さとう さとし
佐藤 智氏
コメント

子どもの笑顔があふれるまちへ

栗原市は宮城県北部に位置し、面積は県内では一番大きく、森林に囲まれた自然と四季のうつろいが大変美しいまちです。栗原は全国有数の米どころでお米と地酒のおいしさはお墨付きです。「子育てするなら栗原市」をキャッチコピーに、安心して子育てができるように、子育て支援に力を入れてまいりました。また、移住者交流会を行うなど、移住後のサポートに力を入れていることが特色です。大人も子どもも笑顔になれるまち、栗原市で皆さまのお越しをお待ちしております。

人の縁を結ぶ「結いターン」で「日本一住みたいまち」へ

豊かな自然と南アルプスを望む優れた景観、四季の変化に富み、地域文化も多彩な飯田市。若い皆さんの結婚や育児に対する価値観は多様化していますが、安心して子育てできる環境はもちろん、「〇〇したい！」という皆さんの思いを全力でサポートします。エネルギーと食料の自給率をさらに高め、「何か」があっても安心な「日本一住みたいまち」を目指します。

いだしちょう
飯田市長

さとう たけし
佐藤 健氏
コメント

うさしちょう
宇佐市長

これなが しゅうじ
是永 修治氏
コメント

自分らしく暮らせる場所が見つけれられるまちです

海、山、平野の美しい自然環境に囲まれながら、都心部へのアクセスも便利な宇佐市。「ほどよい田舎」としても魅力がいっぱいです。自分らしく暮らせる場所がきっと見つかります。独自の施策も年々進化を続け、子どもからシニアまで各世代における切れ目のない幅広い施策を展開し、「定住満足度日本一、交流満足度日本一のまち」に向けた取り組みを進めています。

★人口10万人以上20万人未満の市

総合部門

- 第1位 愛媛県今治市
- 第2位 愛媛県西条市
- 第3位 山口県山口市

若者世代・単身者部門

- 第1位 愛媛県今治市
- 第2位 愛媛県西条市
- 第3位 岩手県一関市

子育て世代部門

- 第1位 愛媛県今治市
- 第2位 愛媛県西条市
- 第3位 岩手県一関市

シニア世代部門

- 第1位 愛媛県今治市
- 第2位 愛媛県西条市
- 第3位 愛媛県新居浜市

愛媛県今治市の魅力

- 子育て支援では、18歳年度末までの医療費が無料になるなど、妊娠期から18歳までの子どもがいるすべての家庭を切れ目なくサポート
- 求人意欲が旺盛な企業が多い。就職懇談会や起業・事業承継のセミナーなど、自治体も地元企業も本腰で取り組んでいる
- 空き家バンク登録数も多く、売買130件、賃貸33件（2023年10月末時点）。市役所では専任の宅地建物取引士が空き家を掘り起こし

懐深い多様性で2年連続4冠！
子育て家族が感動する暮らし

市民一人ひとりに寄り添う「市民が真ん中」のまちづくり

2年連続すべての部門で1位のご評価をいただき、たいへん光栄です。今治市は瀬戸内の温暖な気候と多島美が織り成す美しい風景はもとより、人の笑顔と心も温かい地域です。また、今治タオルや造船、海運業などを中心とした産業も充実しており、安定した雇用も魅力の1つです。今治に移住して、住み続けたいと感じていただけるよう、「市民が真ん中」の理念のもと、きめ細かな移住・定住支援を充実させていますので、ぜひ今治にお越しください。

いまばりしちょう
今治市長
とくなが しげき
徳永 繁樹氏
コメント



就業環境良好な瀬戸内のまち

2年連続全部門で1位を獲得。人口の社会増傾向も継続しています。瀬戸内工業地帯で、求人意欲が旺盛な企業が多いのが特徴。就職懇談会や起業・事業承継のセミナーなど、自治体も地元企業も本腰で取り組んでいます。働き盛り世代にぜひ注目してほしい瀬戸内のまちです。

『田舎暮らしの本』編集長 柳 順一

★人口20万人以上の市

総合部門

- 第1位 愛媛県松山市
- 第2位 山口県下関市
- 第3位 静岡県静岡市

若者世代・単身者部門

- 第1位 秋田県秋田市
- 第2位 山口県下関市
- 第3位 大分県大分市

子育て世代部門

- 第1位 大分県大分市
- 第2位 静岡県静岡市
- 第3位 秋田県秋田市

シニア世代部門

- 第1位 山口県下関市
- 第2位 秋田県秋田市
- 第3位 大分県大分市

愛媛県松山市の魅力

- 海・山・島・街が揃っているので多様なライフスタイルが実現可能
- スーパーや公園、病院、学校がバランスよく立地
- 移住者交流会や子育て世代の交流会が定期的に開催され、仲間を見つけやすい

秋田県秋田市の魅力

- 教育に力を入れており、子どもの学力は全国トップクラス
- 起業したい人向けの創業相談窓口やワーキングスペースがある
- 文化的なまちづくりで知られる「アートのまち」で、アーティストやクリエイターを応援する土壌がある

大分県大分市の魅力

- 公園の数が多く、子どもがのびのび遊べる。子育て支援サイト「naana」で情報を発信
- 大分市中心部は、車なしでも快適な生活ができる
- 「関あじ・関さば」「大分ぶぐ」「ニラ豚」など食の魅力が満載

山口県下関市の魅力

- 自然豊かなエリアに立つ「人口定住促進住宅」に5年を上限に低廉な家賃で入居可能
- 子育て世帯家事・育児支援、子ども医療費助成、子育てタクシー普及支援など育児支援も手厚い
- 空き物件を活用して起業したい人向けに補助制度がある

まつやましちょう
松山市長
のし かつひと
野志 克仁氏
コメント

田舎の穏やかさと都会の便利さ いろいろなよさが混ざり合うまち

松山城を中心に街・海・山がコンパクトに揃っていて、さまざまなスタイルで生活できます。また、ライフステージに応じた子育て支援など、1人でも多くの人を笑顔にできるよう、取り組んでいます。そんな松山で理想の暮らしを実現しませんか？ 東京や大阪での移住フェアをはじめ、電話やメール、オンラインで移住相談を行っています。お気軽にお問い合わせください！

20～30代の若い移住者が過去最多ペースで増加中

秋田市は挑戦する人を応援する土壌があり、若者や子育て世帯向けの支援制度も充実しています。また、豊かな自然と都市機能が調和した「暮らし」の魅力に加え、成長性の高いITや再生可能エネルギー関連企業などの誘致、リモートワーク環境の充実など「仕事」の魅力向上にも取り組んでおります。秋田市で将来を描く若者世代の皆さまをお待ちしています。

あきたしちょう
秋田市長
ほつみ もとむ
徳積 志氏
コメント

おおいたしちょう
大分市長
あだち しんや
足立 信也氏
コメント

“ちようどイ”まち大分市 子育て支援が充実しています

少子化対策を市政の最優先課題として、子育て支援の充実に取り組んでおり、今年度3学期から中学生の学校給食費の無償化を始めるほか、2024年4月からは子ども医療費助成の対象を高校生などまで拡充する予定です。誰もが安心して子どもを産み育てられ、ずっと住み続けたいと思えるまちを目指してまいります。優れた都市基盤と豊かな自然を兼ね備えた「“ちようどイ”がみつかるまち」大分市へぜひお越しください。

若者から元気なシニアまで 理想の暮らしが見つかるまち

リモートワークや多拠点居住など生活スタイルが多様化するなか、都市機能と自然環境を併せ持つ当市への関心も高まっています。これを追い風に、移住相談窓口などこれまでの取り組みに加え東京圏で移住セミナーを開催するなど、本市への移住機会や関係人口の創出を図ってきました。地域おこし協力隊も積極的に受け入れています。まずは一度、下関市へお越しください！

しものせきしちょう
下関市長
まえだ しんたろう
前田 晋太郎氏
コメント

2024年版 第12回「住みたい田舎ベストランキング」 人口別に8グループに分けて、それぞれ4部門を発表！

■村

総合部門(ベスト15)、若者世代・単身者部門(ベスト15)、子育て世代部門(ベスト15)、シニア世代部門(ベスト15)

■1万人未満の町

総合部門(ベスト32)、若者世代・単身者部門(ベスト20)、子育て世代部門(ベスト20)、シニア世代部門(ベスト20)

■1万人以上の町

総合部門(ベスト32)、若者世代・単身者部門(ベスト20)、子育て世代部門(ベスト20)、シニア世代部門(ベスト20)

■3万人未満の市

総合部門(ベスト32)、若者世代・単身者部門(ベスト20)、子育て世代部門(ベスト20)、シニア世代部門(ベスト20)

■3万人以上5万人未満の市

総合部門(ベスト32)、若者世代・単身者部門(ベスト20)、子育て世代部門(ベスト20)、シニア世代部門(ベスト20)

■5万人以上10万人未満の市

総合部門(ベスト32)、若者世代・単身者部門(ベスト20)、子育て世代部門(ベスト20)、シニア世代部門(ベスト20)

■10万人以上20万人未満の市

総合部門(ベスト32)、若者世代・単身者部門(ベスト20)、子育て世代部門(ベスト20)、シニア世代部門(ベスト20)

■20万人以上の市

総合部門(ベスト15)、若者世代・単身者部門(ベスト15)、子育て世代部門(ベスト15)、シニア世代部門(ベスト15)